

画像診断レポート委員会の 新たな取り組みについて

JIRA医用画像システム部会
画像診断レポート委員会
委員長 長田 雅和
(東芝メディカルシステムズ(株))

これまでの活動(2005年度)

- 画像と同様に重要になって来た放射線読影レポートについて、標準化の観点から次のような視点で検討を行ってきた。
 - 読影レポートをマルチベンダー間でやり取りを行うケースが増えていくことを考慮し、SRの適用について検討した。特にIHEのSINRを具体的に検討した。
 - 同様に、IHEのRWFを日本の運用に照らし合わせて適用が可能かどうかを検討した。その結果今のRWFでは、ユースケースおよびトランザクションで不足する、またあいまいな点があるということから、IHEへのフィードバックを行った。
 - RWFについては、IHEで検討が停止状態となった。

再開の経緯、目的

- 放射線科レポートシステムは、各社が特徴ある商品を開発しユーザに供給しているが、生成されるレポートデータは、ベンダ間での互換性がない。現場では、システムの更新等でレポートデータの移行が必要となり、この作業に、多額のコストと労力が、ユーザ、ベンダの双方に負担となっている。
- DICOM、IHEといった標準の適用可能性を検討したが、普及には至っていない状況。
- このような課題について、阻害要因を分析し、異なるベンダ間でのレポートデータの互換性およびシステム接続を確保するための方式について検討し、ガイドラインを作成することを目的とする。

今後の予定

- レポートの範疇は、放射線部門以外にも拡大しているが、この委員会での議論の範囲をある程度絞って行う。
- システム接続については病院ごとにワークフローが異なり、まとめるのが難しいため、この委員会ではまず、レポートデータの互換性の取り組みから始める。
- 活動期間は1年。月に1度委員会開催。報告は来年10月に実施。
- 活動期間の前半は、これまでの活動のおさらいや海外の状況など情報の棚卸し期間とし、後半で、具体的な実用的な交換形式をまとめていく。